

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立高森台中学校（愛知県）【指定校】

【取組内容】 ②情報活用能力を育成するための教育課程を作成し、運用する

月	週	単元名・活動・目標	繰り返し経験させること	教材・スライド
4月	1	1 高森中のよさをプレゼンにしよう 目 自分の意見をわかりやすく伝えるために情報をまとめて表現することができる	学習過程を実践的に活用させる	情報の時間1年生1学期①
	2	①ちよつと先の未来を見ながら情報の時間で学ぶ目的を知る		情報の時間 1年生 2学期...
	3	②③学習過程を使って問題を解決する経験をする ④Webサイトの構造を知り、効率よく情報を集める	学習過程を実践的に活用させる	情報の時間 1年 1学期③
5月	4	⑤多面的に物事を見る経験をする ⑥物事を比較して見る経験をする ⑦物事を抽象化させる経験をする	webサイトが一定の構造になっていることを理解して効率よく見るための練習	情報の時間 1年 1学期④
	5	⑧自分の意見をもとに、他者と議論をする ⑨自分の意見がよく伝わるような写真を撮って説明をする ⑩自分の意見がよく伝わるような写真を撮って説明をする ⑪自分の意見がよく伝わるような写真にキャッチコピーを付け加えよう ⑫学習を振り返る方法を知る	自分のよく知っているものについて集めた情報の分類	1年情報の時間⑤
	6		よく知っているものについて他のものと比較しながらの情報整理 物事の抽象化	情報の時間⑥
	7			情報の時間⑦
	8			情報の時間⑧
	9		物事を他のものと比較しながら多面的に見る	情報の時間⑨

「情報の時間」の教育課程の一部

⑥ 中学生の実態のデータを分析して、レポートにまとめよう

武田尚大・11:03

【本時の目標】

全数調査と標本調査を使い分けすることができる

【本時の流れ】

1. 前回の振り返り

- 愛知県の気象状況を分析して、レポートにまとめることができる
- 全数調査と標本調査について知る
 - 全数調査と標本調査を使い分けクイズ
 - 振り返り

【単元の目標】

データをうまく使えるようになる

【単元の流れ】

- データをうまく使った問題解決を知り、単元の見通しをもつことができる
- グラフからわかることを読みとる経験ができる
- 箱ひげ図を読むことができる
- 愛知県の気象状況を箱ひげ図に表すことができる
- 愛知県の気象状況を分析して、レポートにまとめることができる
- 全数調査と標本調査を使い分けすることができる
- 無作為に情報を集めることができる
- 箱ひげ図で無作為に得た結果を表現することができる
- 10 高森台中学校の生徒の情報を集めて分析することができる
- データを探索的に分析して問題を見つけることができる
- 分析した結果をレポートにまとめることができる
- 生成AIを活用してレポートを修正することができる
- 単元を振り返り、身につけた力を確認することができる



動画を作成する生徒の活動場面

生徒と学習の流れを共有したLMSの一部

①情報活用能力を育成する教育課程の作成過程
各教科に散らばっていた情報活用能力の育成場面をや教科や学級の担当が学習がスムーズにいくよう教育課程にはないもの便宜上実施していた情報活用能力の育成場面ことなどを集めて整理した。

②情報活用能力を育成する教育課程の特徴
教育課程の目的を具現化するために、生徒が活動を重ねることで情報活用能力という資質・能力が育っている。領域の名前は「情報の時間」とし全学年ごとに週1時間、年間35時間の教育課程を編成した。

③情報活用能力を育成する教育課程運用の成果
情報活用能力は汎用的な資質・能力であるため、各授業の学習成果も充実してきている。

④情報活用能力を育成する教育課程を運用する前提
一人に一台の端末があるクラウド環境を前提として教育課程をつくっている。また、各教科の授業で生徒による問題解決の場面があることも前提としている。

⑤今後の課題
カリキュラム内に無駄や無理がないかの精査。生成AI活用の指導について改善を継続する。